

報道関係者各位

2009年12月7日

森ビル株式会社

弊社社長 森稔 英国より名誉大英勲章 KBE を受章

森ビル株式会社 代表取締役社長 森稔は、日英関係の発展に対する功績が認められ、エリザベス二世女王陛下より、名誉大英勲章 KBE を受章いたしました。本日 12 月 7 日（月）、駐日英国大使館大使公邸にて叙勲式が執り行われ、ディビッド・ウォレン大使より勲章が授与されました。

■名誉大英勲章 KBE 叙勲理由（英国からのコメント）

芸術の分野での日英協力に対する森氏の功績は顕著で、英国王立芸術院、テート・ブリテン、テート・モダンなど、英国を代表する芸術機関の成功には、森氏による支援が大きく寄与しています。2003 年に開館した六本木ヒルズの森美術館は、コンテンポラリー・アートを発信する世界屈指の美術館として、その地位を確立しました。マーク・ウォリンジャー、クリス・ウィン・エヴァンス、ジム・ランビーをはじめとする数多くの英国のアーティストたちが、森美術館で自分たちの作品を展示する機会に恵まれました。また、森美術館のインターナショナル・アドバイザー・コミッティーには、英国の芸術界を代表するひとり、テート館長のニコラス・セロータ卿がメンバーとして加わっています。

日英外交関係樹立 150 周年を祝い、駐日英国大使館とブリティッシュ・カウンシルが昨年一年間展開した「UK-Japan 2008」では、六本木ヒルズ森タワー52 階東京シティービューでの開幕イベント、森美術館での「英国美術の現在史：ターナー賞の歩み」展、アカデミーヒルズでのデービッド・ミリバンド英国外務大臣と日本の大学生たちとのトーク・イベントなどが、森氏の寛大なる支援により成功を収めました。そして、表参道ヒルズでは、スコットランドのファッション展が好評を博し、昨年 10 月に来日されたコーンウォール公爵夫人もご覧になりました。

森氏は、森美術館や英国の芸術機関との活動を通じて、日英の芸術分野での重要な協力者です。

■森社長コメント

この度、名誉大英勲章受章の栄に浴しましたことは、身に余る光栄に存じます。「英国美術の現代史：ターナー展の歩み」展をはじめとして、文化政策が社会の中で大きな役割を果たしている英国をより深く皆様にご存知いただく様々な催しが成功を収めましたのも、英国という良きパートナー、そして多くの関係者の方々のご尽力の賜物と考えております。長年にわたる都市開発事業を通じて、首都東京、ひいては日本の都市の発展に貢献するよう努力して参りましたが、「文化都心」を標榜する六本木ヒルズとその象徴である森美術館のみならず、このように私どもの文化交流、国際交流の活動を高く評価していただき、このうえない喜びでございます。この榮譽を機に、今後も、英日両国友好のさらなる発展に貢献していくとともに、世界中から多くの人々に訪れていただける魅力的な都市の創造に邁進していく所存です。

名誉大英勲章 KBE (Knight Commander of the Order of the British Empire) は、様々な分野で残した優秀な功績を認め、社会全体の貢献に対して感謝するというもので、特に、際立った成果を残された人々、または、奉仕活動に尽くした人々に授けられる権威ある勲章です。英国人以外に対しても、英国との関係発展への顕著な貢献を認められた方に叙勲の榮譽が授けられます。これまで、トヨタ自動車会長 張 富士夫氏、日産自動車社 CEO カルロス・ゴーン氏などが叙勲されています。



六本木ヒルズ森タワー53階の森美術館にて「英国美術の現在史：ターナー賞の歩み展」(2008.4～7開催) 展示をご覧になるミリバンド英外相(撮影:渡邊 修)



2008年6月にアカデミーヒルズで開催された「デービッド・ミリバンド英外相との対話」イベント 環境問題やインターネットについて語る(撮影:渡邊 修)



2008年10月に表参道ヒルズで開催されたスコットランドのファッション展をご覧になるコーンウォール公爵夫人

当社は、街づくりにおけるミッションの1つに「文化・芸術」を掲げています。今後も、街全体を舞台に様々な国の文化や情報などを受発信し、世界中から多くの人々を惹きつけ、新たな知的交流を生み出すような、磁力ある街づくりを推進してまいります。

<本件に関するお問い合わせ先>

森ビル株式会社 広報室 深野、森澤、一木

TEL:03-6406-6606 FAX:03-6406-9306 E-mail:koho@mori.co.jp